

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：
研究種目：奨励研究
研究期間：2020
課題番号：20H00745
研究課題名：小学校外国語科で活用するアフリカ地域に関するワークショップ型の
開発教育教材の開発

研究代表者
中 陽佑 (NAKA, Yosuke)
奈良市立都祁小学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）（直接経費）：480,000 円

研究成果の概要：本研究では、小学校外国語科において、アフリカのルワンダの水に焦点を当てた教材と、南アフリカ共和国、ルワンダ、アフガニスタンを取り上げた平和に関する教材を開発した。さらに、全校学習において、人種差別問題、国旗、子どもたちの夢をテーマとした教材を開発し、実践を進めた。外国語科では、世界にまたがる唯一の正解がない問題について取り扱い、それらについての現状を知り、学ばせるとともに、自らに何ができるかを考え、その内容をまとめて発信するという流れで実施した。オンラインミーティングで学外の専門家や該当国出身の方と接続して学ぶ機会を持ち、それらの学びを書（毛筆）やポスター、動画の形にし、学習のまとめとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、主に小学校外国語科で活用可能な、アフリカ地域に関する国際的な問題の分析やその解決策について考えるためのワークショップ型の開発教育教材を開発することを目的とし、研究を進めた。その目的を達成するため、アフリカを始めとした世界の現状を知り、授業やオンラインミーティングを通して学び、自分にできることを考えて発信を行うという一連の流れで単元を構想し、実践を進めてきた。水と平和という、世界でも重要とされ、SDGs にも取り上げられているようなテーマを、専門家やその国出身の方たちとのミーティングなどを通して複合的に学ぶ機会を持てた点、収集した資料を活用した教材の開発ができた点に意義があったと考えている。

研究分野：小学校外国語科で活用する開発教育教材の開発

キーワード：開発教育 国際理解教育 小学校外国語科 水 平和 アフリカ地域
ICT 機器 オンラインミーティング

1. 研究の目的

本研究では、主に小学校外国語科で活用可能な、アフリカ地域に関する国際的な問題の分析やその解決策について考えるためのワークショップ型の開発教育教材を開発した。アフリカ地域は、今後日本との関わりが一層増えると予想されるにも関わらず、現在の小学校の教育課程では十分に取り上げられてはいない。また、児童に問題意識や社会貢献への意識を持たせるためには、自分で物事を深く考えたり、人に伝えたり、話し合ったりするワークショップ形式の授業の推進が効果的であるが、学校現場で十分に浸透しているとは言えない現状があった。

そのため、アフリカ地域を取り上げ、世界にまたがる唯一の正解がない課題に対して、知り、学び、児童自らができることを考えて発信できるような開発教育教材の開発に取り組んだ。

2. 研究成果

本年度、外国語科（総合的な学習の時間等も含む）の授業において、4、5、6年生向けの水に関する教材、小学校5、6年生向けの平和に関する教材を開発し、実践を行った。授業者から世界の現状を授業で伝えた後、オンラインミーティングを活用し、専門家やその国出身の方たちから直接お話を聞く機会を設けた。このような学習を通して、児童は世界の現状を知り、自分にできることを考え、学びを発信した。その学習の過程で、児童同士の意見交流や専門家への質問を通して、学びをさらに深めることができた。

加えて、全校学習の場において、児童が世界の現状を知り、自分たちについて考えることができるような教材を、計3種類開発（1学期：人種差別問題 2学期：アフリカ地域の国旗 3学期：世界の子どもたちの夢）し、実践を行ってきた。毎回の授業後には、児童に振り返りを記述させるという取り組みを継続してきたことで、児童の変容や成長を見取ることができた。

また、年間を通して、世界に目を向けさせるような教材を開発して実践してきたことで、児童の視野を広げることができた。世界に広がる唯一の正解がない問題に対し、現実や実情を学び、その学んだことを基にして考えたことを発信する取り組みができたことは、児童の世界や社会の見方に大きな影響を与えたと言えるだろう。以下、外国語科で行った取り組みを示す。

（1）Water in the world ～ルワンダに焦点を当てて～（4・5・6年生 各学年11時間）

本単元では、身近なところにある水をテーマとして、ルワンダを始めとする世界の事情を知り、学び、自分たちにできることを考えることをゴールとして実践を進めた。

① 世界、ルワンダの水事情について

単元の最初には、自分たちが普段当たり前のように使っている水に関する世界の現状について、児童が持つ先入観を取り除く導入を行った。世界には水に困っている地域がたくさんある、水は貴重品であり、汚い水を飲んだことが原因による下痢で毎日多くの人が亡くなっている、水をめぐる戦いが世界中にはたくさんある、といった具体的な事例を世界の水問題の概要として提示し、普段自分たちが当たり前のように飲んでいる水について、視野を広げさせた。

その後、アフリカのルワンダを取り上げた。まずは文化や風習について紹介した後、ルワンダの水の現状について、授業者から資料を提示するかたちで学習を進めた。動画を見せながら、都心部と村落部の違いを見せ、日本との違いについても比較検討させた。

② JICA ルワンダ事務所とのオンラインミーティング

教室での学びを生かし、JICAの協力を得て、ルワンダの水の専門家とオンラインでつないで学びを深めた。実際に質問したいことを事前に児童から集めておき、当日のお話の中で適宜それらの内容にも触れていただいたため、質疑応答の時間も含めて、児童の多くの疑問が解消された様子であった。ミーティングの中では、現地の子どもたちが運んでいるものと同じ重さのボトルをこちらで用意して、実際に重さを体感してもらうという活動も組み入れた。

③ 日本人によるルワンダへの水支援

JICAでルワンダの水問題について取り組む方を動画で紹介したり、授業者が現地を訪問した際に訪れた工事現場を支援している日本の企業について写真で紹介したりし、日本人が様々なかたちで世界の水問題の解決に向けた活動を行っていることを伝えた。

④ 学びを生かし、自分たちができることを考える

児童は今日日本で暮らしており、現地へ行って直接支援をすることは難しいが、日本にいながらにしてルワンダの抱える水問題を支える術はないかという問いかけを行い、自分には何ができるのかを考えさせた。世界の現状、ルワンダの現状を学んだあと、視点を自分に戻し、学んだことを生かして深く考えさせることで、単に知識を得るだけではなく、自分が実際に直面している課題として学びを深めることをねらいとしていた。児童からは、募金をする、日本の水を送る、JICAや現地で活動している日本の企業に入って将来的に貢献するなどの感想が出された。その後、単元当初に作成したイメージマップを再度改めて書かせ、最初にしたものと比較することで、本単元を通して自身の成長を振り返った。さらに、これまでの学習の過程を振り返り、ワークシート上で「世界の水の授業を受ける前と受けた後で、考えが変わったところがありますか」という問いかけを行い、各自に自身の学習のまとめを書かせた。

⑤ 発信と更なる学習

自分たちが本学習において、印象に残ったこと、伝えたいメッセージを書（毛筆）で表して学習のまとめをした。一人一人、本単元を通して強く感じたことは異なるため、書く内容については自分で決めるように促した。また、エチオピアやソマリアなどルワンダ以外の国が抱える水問題についても触れ、さらに児童の視点を広げるかたちで単元を閉じた。

また、本校の総合的な学習の時間における取り組みとも連携させ、学校行事である「森の学校」（地域の野外活動センターにおける活動）や「大和高原博覧会」（地域の施設を活用したイベント）において、授業での学びを保護者や地域の方々に知らせた。そして、地域で取れたお茶を地域の水源地で汲んだ水で淹れて販売するとともに、児童による募金活動を行った。

（2）PEACE ～Disputes in the world～（5・6年生 各学年20時間）

本単元では、1学期より継続して学習してきているルワンダや南アフリカという国において、数十年前まで争いがあったという事実、アフガニスタンでは今もなお、混乱と復興の途中にあるという事実を授業で伝えとともに、各国出身の方に、国の歴史や平和についての思いを語っていただくことで、児童が平和について自分事として考えることにつながると考えた。本単元開始前、児童に「平和」をどのようにとらえているのか、アンケートを取った。その後、各国の授業を行う前には、その国に関しての事前アンケートを行い、児童が持つその国のイメージや印象を文字化して整理させたうえで授業を実施した。

① 南アフリカ

国の概要を説明した後、WHITES ONLY や NON WHITES ONLY と書かれたベンチの写真を使い、アパルトヘイトがどのようなものだったのか説明した。もし、自分がその時代に南アフリカにおいて黒人として生きていたら、どう感じていただろうかということをペアで話合わせて全体で共有した。さらに、ネルソン・マンデラ氏が当時の南アフリカでどのようなことをしてきた人なのかをスライドや動画で伝えるとともに、マンデラ氏の英語インタビューを見せてリスニング活動を行った。

② ルワンダ

1994年に起こったジェノサイドについて学習を進めた。まずは国旗を紹介してその意味を確認した後、ルワンダの子どもたちの写真を見せ、それぞれがどんな子どもだったかを紹介した。その後、1994年にルワンダでの出来事を紹介し、先程の写真の子どもたちは全てその時に亡くなったことを伝えるとともに、もし自分がその場にいたらどうだったかについて考えさせた。合わせて現在のルワンダの発展と美しい風景を紹介し、大きく復興はしてきているけれども、その裏ではこのような歴史があったということを伝えた。

③ アフガニスタン

アフガニスタンの国を紹介し、国旗について色やそれが持つ意味などを説明した。そして世界には学校に行けない子どもがたくさんいて、その事情も様々だということを伝えた。その後、アフガニスタンの子どもが学校に行けていないケースを3つの動画を見せて考えさせた。その次時の授業では、難民をテーマに取り組んだ。まずは「難民」という言葉を聞いたことがある児童を確認し、意味を知っているか尋ねた。その後、子どもの難民に関わる動画を3本見せ、それぞれに解説を加え感想を書かせた。

④ 各国とのオンラインミーティング

JICAの協力を得て、各国からの研修生に、国の状況と、自身の経験、そして今考える平和についてお話をいただいた。ミーティングの前には、児童に当日質問したい内容を日本語でまとめさせ、1人1台の端末を活用し、翻訳サイトを使って英語に翻訳させて集約し、JICAスタッフや通訳、研修員の方々と共有した。

当日は、本校5年生教室、6年生教室、研修生、通訳、JICAスタッフを接続し、ミーティングを行った。まず研修生の方から国の歴史や現状をお話いただき、平和に関するメッセージを児童にいただいた後、質疑応答で、こちらからの質問に答えていただくという流れを取った。合計3回のオンラインミーティングを行ったが、現地出身の方に直接お話を聞かせていただける機会は大変貴重であり、手書きで10枚以上のメモを取り、学んだことや感じたことを書いてまとめていた児童もいた。

⑤ アフガニスタンに対する日本の支援について

日本がこれまでに国として行ってきた、教育分野、健康分野、食料分野、生活分野での支援についてそれぞれ動画を見て確認し、感じたことを記述させた。また個人として、中村哲医師による貢献を動画で紹介し、中村医師が亡くなったとき、アフガニスタンで追悼されたことについても伝えた。日本が多く支援をしてくれていることについて知らない児童が多く、大変印象に残ったことがワークシートへの振り返りの記述より読み取れた。

⑥ リスニング活動

これまでの授業で見た素材（アフガニスタンへの日本の支援について現地からの感謝が伝えられる動画）を使い、1人1台の端末を用いてリスニングテストを実施した。英語インタビューのリスニングであったが、一度見た素材で内容の理解ができていたということもあり、聞き取りをしっかりとできていた児童が多くいた。

⑦ 自分にとっての平和とは

3人の方からの平和メッセージをオンラインミーティングの動画で振り返るとともに、ルワンダの私立学校であるウムチョムイーザ学園の小学生が考える平和について、昨年度現地で撮影した写真を紹介し、自分が考える平和とはどのようなものなのか、改めて考えさせた。その後、それを守っていくために、今できること、将来大人になった時にできることについて考えさせた。まとめとして、自分が本単元を通して一番印象に残った学びを書（毛筆）で表現し、教室に掲示した。さらに、1人1台の端末で、6年生は総合的な学習の時間とも連携して、修学旅行の学びを含め、本単元での学びを動画で、5年生はポスターで学びをまとめた。また最初に取ったものと同じアンケートを再度取り、児童自身の変容と成長を確認した。

3. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計1件）

木村裕・中陽佑「小学校の外国語活動における開発教育の実践事例の検討-実践を進めるうえでの検討課題と取り組みのあり方に焦点をあてて-」『人間文化』（滋賀県立大学人間文化学部研究報告）49号、2020年、32-43頁。 <http://usprepo.office.usp.ac.jp/dspace/handle/11355/675DOI>（デジタルオブジェクト識別子）info:doi/10.24795/nb049_032-043

〔学会発表〕(計1件)

第12回 ユネスコスクール全国大会 ESD 研究大会 2020年12月6日

実践研究① 課題解決のための行動化を促進する

発表校：奈良市立都祁小学校(岸下哲史・稲葉敦・中陽佑)

<http://www.jp-esd.org/conference2020/>

〔その他〕

雑誌(実践報告)

- ① 中陽佑「～PEACE in the world～(小学校5・6年生) 世界にまたがる唯一の正解がない問題を知り、学び、自分にとっての「平和」を考える」、文部科学省教育課程課・幼児教育課編、『月刊 初等教育資料 3月号』(No.1005)、東洋館出版社、2021年、98-99頁。

セミナー発表

- ① 中陽佑「水をテーマとした小学校外国語における教材開発～動画素材を活用して～」『With/After コロナ時代の新たな授業を考える～ICT、映像教材を効果的に活用している教員の実践事例を通して～』、2020年10月26日。

(JICA 地球ひろば主催 教科書会社・教育関係者向けセミナー)

https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2020/201113_01.html

研修会発表

- ① NAKA Yosuke 「English Education at TSUGE ～Utilizing Online Meetings～」令和2年度 文部科学省「新時代の教育のための国際協働プログラム」事業 教員交流研修(海外コース) 日本からの実践事例発表、2021年1月24日。
- ② 奈良県立教育研究所主催研修会 令和2年度 第2回奈良県複式学級・小規模学級担任等研修会 「へき地校でこそできる豊かな自然を生かした実践授業」発表校：奈良市立都祁小学校(岸下哲史・稲葉敦・中陽佑)、2021年2月9日。
- ③ 奈良市教育委員会主催研修会 1人1台端末を活用した英語科の授業について中核英語教員取組紹介③ 中陽佑「小学校外国語における実践開発 『都祁の宝物で世界の宝物を(PBL)』～オンラインミーティングを活用して～」2021年2月25日。

受賞

- ① 令和2年度奈良県公立学校優秀教職員表彰【若手教職員等奨励賞】

<http://www.pref.nara.jp/secure/218841/yushu201023.pdf>

- ② 実践事例集

令和2年度奈良県公立学校優秀教職員表彰実践事例集

中陽佑「「知る」から始め「知る」だけで終わらせないために

～「自分ができることを考える」ことにフォーカスした外国語教育～」

<http://www.pref.nara.jp/secure/46200/R2%20yushu-naiyou.pdf>、19-20頁。

実践が取り上げられたもの

- ① 奈良新聞 2020年11月17日 第2社会面(2面)
「差別なき世界目指して 都祁小でオンライン特別授業」
- ② 「世界につながる教室 12 映像の力で、興味を引き出す」『mundi』10月号、独立行政法人 国際協力機構、2020年、26-27頁。
<https://www.jica.go.jp/publication/mundi/ku57pq00002kfsx7-att/202010.pdf>

ホームページ

- ① JICA 関西ホームページ
「奈良市立都祁小学校にて、JICA ルワンダ事務所とのオンライン授業が実施されました！」
https://www.jica.go.jp/kansai/topics/2020/200728_01.html
- ② 奈良市立都祁小学校ホームページ
ルワンダと Zoom でつないで授業 2020年7月21日
<http://www.naracity.ed.jp/tsuge-e/index.cfm/1,2893,12,728,html>
オンラインで三ヶ所をつなぐ 2020年11月16日
<http://www.naracity.ed.jp/tsuge-e/index.cfm/1,3176,12,728,html>
アフガニスタンの学習を通して 2020年11月19日
<http://www.naracity.ed.jp/tsuge-e/index.cfm/1,3236,13,306,html>

4. 研究組織

研究協力者

研究協力者氏名：・木村 裕 ・吉村 雅仁 ・後藤田 露子 ・中島 弘司 ・富田 美佳
・Virgile Kwizera ・横田 裕子 ・Josue Nzajyayo ・Tlou Nong ・Jailani Siddiqi
・柳 博美 ・津田 かおり ・今西 敏幸 ・岸下 哲史 ・稲葉 敦

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。